

## 活動報告書

外国語学部中国学科 2 年（参加当時）

北京語言大学で過ごした約 3 週間は、大変価値のある経験になった。出国は、あいにくの台風の影響で予定より 2 日遅れた。計画と日程が異なることや、何もできずに日本で過ごす時間が虚しくて、気落ちしてしまったが、将来海外を転々とする職に着いた時に、このような事態はつきものだろうと考えるとこれもいい経験だった。福岡から大連を経由して北京に到着した。空港からタクシーに乗って 1 時間ほどで宿舎に到着した。入居手続きに 1 時間ほど要したので、いざ自分の部屋に入ったのは夜 22 時でかなり疲れた。

初めての寮生活に内心不安があった。覚悟はしていたつもりだが、水回り環境を見るとまくやって行けるのか不安になった。これに関しては、住み始めて 1 週間ほどでトイレとシャワーを上手に使う方法を生み出し、不便に感じることは無くなった。私たちの部屋は一階だったため、エレベーターを使用する必要がなく、フロントから歩いてすぐつくことは良かったのだが、エレベーターの裏側の部屋だったために、エレベーター待ちをしている人の話し声が時々うるさく感じた。

月曜日、初めの登校日は留学生センターでのいくつかの手続きと、プレイスメントテストが行われた。プレイスメントテストが終わった人からその教室の担当の先生と口語のテストをした。結果は午後 wechat を通じて知らされ、翌日以降はそれぞれのレベルに合ったクラスで授業を受ける形だった。初めの三日間は自分のレベルに応じてクラス変更届を出せば、好きなクラスへ移動できるシステムだ。私は初め、一つレベルの高いクラスに移動しようかと思ったが、そのクラスから逆に移動してきた学生から、人が多すぎたとの話を聞いて移動するのをやめた。

結局、私のクラスは少し人が少なかったため、授業中に発言できる機会が多かったり、気になるところをすぐに先生に質問できたりと、中国語をたくさん話することができる環境が整っていたので、よかったと思う。

授業は平日のみで、8:30 から 12:10 までである。午後は好きに過ごして良い。1ヶ月もないプログラムの中で貴重な時間なので、できるだけ午後は部屋で過ごすのではなくて外に出ていろんな経験をしようとした。初めは校内の散策などをした。その中でも一番驚いたのは食堂だ。北九州市立大学の食堂は一つしかないが、北京語言大学の食堂は一つの大きな棟に五階まで様々な料理のお店が入っており、どれも非常に安い。個人的には具材を自分で選べる



朝食メニューが並ぶ朝の学食

麻辣担の店が印象的だ。近年日本でも人気が高く、福岡のお店にも行ったことがあったが、割高だなと感じていた。しかし、食堂の麻辣担は具材をたくさん選んでも 200 円しないくらいだった。食費が安く済むのは中国留学の大きなメリットだと感じた。他にも、きれいに整備された大きな図書館や校内にあるスーパー、チェーン店の多さに驚いた。

別の日の午後は学校から歩いて行ける距離のデパートへ行った。このプログラム期間、休日にもいくつかデパートへ行ってみたのだが、どこへ行っても日本のアニメキャラクターのお店がたくさんあったので、日本の作品が中国人にも多く愛されていることを実感した。日本ではあまり見ることのないポップマートというグッズがあることを初めて知った。中国市場については、やはり現地にはないとわからないものがあるなとつくづく感じた。

私はこのプログラム期間に達成したい目標をいくつか作っていた。その一つが留学生の友達を作ることである。日本にいる時は外国人の学生と交流する機会がほとんどないので、この期間で絶対に外国人の友達を作りたかった。私は英語がある程度話せたので、クラスメイトにたくさん話しかけた。最初に友達になったのはフィリピンから来た女の子だった。福岡のことを知っていて、興味があるようでたくさん話を聞いてくれた。他にも韓国、イタリア、インドネシア、タイなど普段話す機会の少ない国の学生とたくさん話をして、友達になることができた。活動が終了してからも WeChat を通じて交流を続けている。英語と中国語を織り交ぜながら話していると、話せる言語が増えれば増えるほど自分の世界が広がるのを感じた。毎日語学勉強のモチベーションが上がっていった。

平日の午前中はテキストに沿って授業を受け、中国語の基礎や文法を身に付け、午後は現地の中国人と話せる場所へ出向いて、実際に中国語を話すというルーティンが出来上がった。

初めの休日は円明園を訪れた。高校の世界史で習ったことがあったので、歴史の予備知識を備えたうえで実物を見ることができ感動した。北京市内にはたくさんの歴史的建造物があり、どこを訪れてもその壮大さに驚かされた。中でも 1 番印象深いのは天安門だ。テレビや写真で何度も見たことのある肖像画を間近で見ているという不思議な気持ちだった。天安門へ行くためには何度もセキュリティチェックを通過する必要があった。現代中国の授業で聞いていたの、セキュリティが厳しいことは知っていたのだが、想像以上だった。一緒に行った友人は中国語勉強用の資料を持っていたのだが、日本語がびっしり書かれたプリントは問題があるようで、検問官の中でも上の立場の人がチェックをして、許可が出るまで時間がかかった。無事セキュリティチェックを通過し、天安門広場を潜って中へ入ると、あの有名な映画「ラストエンペラー」で見た故宮が広がっていた。大きな門を何度も抜けてたくさん歩いた先によりやくあの紫禁城が顔を見せた。君主制と共和制の狭間に入った気持ちだった。この日は故宮を抜けた先の景山公園の頂上まで登った。

疲労を超えた達成感を味わえた。中国は本当に広がった。少し外出するつもりが、毎回かなりの距離を歩くことになるので歩数アプリのポイントがすぐに貯まった。

先述した通り、中国は食費がとても安いのだが、その他にも公共交通機関の利用料もとても安い。私の感覚では、観光地の周辺でなければバスを利用するのが最も快適だった。一元あれば遠くへ行けた。また、タクシーをかなり安く利用できた。せっかくの機会なので、使える交通手段は全部体験してみようと、バス、地下鉄、タクシー、自転車全て制覇した。北京市内には自転車を利用している人が非常に多かった。アリペイからバーコードを読み取ってレンタルし、指定区域内を好きに移動できるシステム。自転車とバイクは同じルールが適応されており、歩行者との距離が近く、外を歩いていてヒヤッとする場面も多かった。日本との交通ルールの違いがたくさんあった。

9月の中旬、中国には中秋節という祝日があり、観光地は非常に賑わっていた。学校も2日間休みになった。その祝日は日本人のクラスメイトと有名なショッピングエリアへ行った。



どこへ行くか計画を立てる時必ず利用していたアプリがある。それは小红书というアプリである。中国のことについて調べる時はこのアプリを使うのが1番良いと思う。インターネットアクセスが規制されているため、中国の主要アプリを利用した方がたくさんの情報を得ることができる。このアプリを使って、中国での流行やコンビニの新商品など、日本のインスタグラム感覚でいろんなことを調べていた。日本にいても使うことができるので、中国語学習者には是非お勧めしたいアプリである。この時訪れたのは三里屯というショッピングエリアで、たくさんの若者が買い物やカフェを楽しんでいた。この辺りの物価は福岡という天神とあまり変わらないと感じた。北京は出発前に想像していたよりも気温が低く、長袖の服が足りなかったのでここでいくつか服を買い足した。中国はモバイル決済が主流なので、現金を使っても良いか聞くと少し驚かれたり、わざわざ奥の金庫からお釣りの現金が出てきたりと、現金がほとんど使われていないことがわかった。アリペイや WeChat pay は非常に便利で、これらのアプリから検索で他のアプリを利用できたり、一括で連動して支払いができるので時短かつ効率的だった。アプリと紐づけるカードはVISAカードをお勧めする。

あっという間に3週間のプログラムが終わった。最後の土曜日は1人で観光地へ行き、最後の北京を堪能した。3週間という短期間だったこともあり、パッキングも簡単に終わった。

私は来年、一年留学を控えているので、今回の北京での生活を通して、来年に活かしたいなど感じるものがたくさんあった。あったら便利なものや必ず日本から持っていきたいものなどメモしたので、忘れずに実行したいと思う。

中国語の授業の先生はとても献身的でどんな質問にも一生懸命に答えてくださった。クラスメイトが勉強を頑張る様子に自分も感化されて学習モチベーションが高まった。計5冊の教科書を日本に持ち帰り、自主学習に利用している。このプログラムを終えたいま、参加して本当に良かったと思う。あの時、迷いながらもプログラムに申しこんでよかった。このプログラムを通して得たたくさんの学びを、自分のこれからの成長に活かしたい。